

香川県教育施策推進協議会第1回会議における主な意見

1 開催日時等

- (1)開催日時 令和2年10月20日(火) 15:30~17:20
 (2)場 所 香川県庁本館12階 大会議室

2 出席委員

会 長	野崎 武司	香川大学教育学部長
副会長	岩崎 敬子	香川県商工会議所女性会連合会会長
委 員	青井 静	香川県社会教育委員・家庭教育推進専門員 香川県子ども読書活動推進会議委員
	和泉 和美	香川県PTA連絡協議会母親代表委員長
	猪熊 優子	香川県立龔学校 学校評議員 (元香川県立高松養護学校校長)
	大林 典子	スクールカウンセラー・臨床心理士
	尾形 優子	メロディ・インターナショナル株式会社 代表取締役CEO
	尾崎 勝	伸興電線株式会社 代表取締役社長
	田中 敬子	観音寺市立豊浜小学校 学校運営協議会委員
	千切谷耕一郎	香川県高等学校PTA連合会会長
	坂東 民哉	香川県町教育長会会長 (小豆島町教育委員会教育長)
	藤本 泰雄	香川県市町教育委員会連絡協議会教育長部会長 (高松市教育委員会教育長)
	吉田 重隆	元香川県立農業経営高校校長 (藤尾八幡神社宮司)
	吉田 秀典	香川大学創造工学部教授 (香川大学副学長)

3 委員から出された主な意見等

香川県教育委員会のこれまでの取り組み、本県の教育を取り巻く現状について

項 目	意見等(要旨)
◆次期教育基本計画において目指すべき方向	<p>○ GIGAスクール構想によって、教室の仲間だけで学ぶのではなく、(インターネットで繋がり)世界中の人たちから同時に学べるような環境になることから、世界中の多様な方々と一緒に、学んでいく姿勢や意欲を持つ子どもたちを育てなければならない。</p> <p>また、特別支援学級や特別な支援が必要な子どもの数が増えている。自分とは考えが異なる人、自分とは異なる人と一緒に生活していく共生社会が求められると思う。</p> <p>不登校の問題、人口減少の問題にしても、すべてに共通すると思うが、共生社会の中で、子どもたちが多様な考え、思想を持っている人たちと、一緒に仲良く生活していくためにはどうしていけばいいのかというようなことも考えなければならない。</p> <p>以上のことから、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル社会の中で、どう子どもたちが生きていくのか ・共生社会の中で、どう子どもたちが生きていくのか

項 目	意見等（要旨）
	<p>この二つのことを考えて、目標とその具体策を考えていただきたい。</p> <p>○ 中教審で出された資料にも、学校教育が直面している課題として、子どもたちの多様化が一番にあり、特別支援学級、特別支援学校、様々な特別な支援に関わること（外国人児童生徒のこと、子どもの相対的貧困など）が大きく打出されており、特別支援教育に関する知見が、教師全員に必要な内容だとされていた。</p> <p>また、GIGAスクールに対応できる教員をしっかりと養成することも必要である。今、学校の先生方に求められる能力が、多様に幅広くあり、それに対応していくためには、教員の多忙化など様々な課題もあると思うが、今後の教育を見直していくにあたっては、力を入れていただきたい。</p> <p>◆ICTの活用について</p> <p>○ ICTをコロナのような状況下に、オンラインやWEB配信で使うということだけではもったいない。全生徒がタブレットを持つということにおいて、どう活用するのかが重要である。宝の持ち腐れにならないように活用するには、現場の運用にかかっている。端末を使って、対応できるよう教員の育成も必要だ。一方で、様々な弊害（新聞を読まなくなる等）もでてくる可能性があるため、活用方法などは、これからの大きな課題だと思う。</p> <p>○ ICTの有効性は理解しているが、学校教育には、集団で学ぶことの良さもあり、その中でICTをどう活用するかということは、よく考えておかないといけない。</p> <p>○ 子どもたちが、今後情報化社会になってくる時にビハインドにならないよう、情報を正確に収集しまとめていく能力が必要となる。より多くの統計情報を集めて処理するために、ある程度デバイスの活用方法を知っておくことが必要である。</p> <p>また、先生方も（ICTを活用することにより）、どのくらいの進捗状況で子どもたちが学んでいるかを、問題に答えてもらったときに瞬時にわかるので、迅速に情報をつかめる。</p> <p>ゲームやインターネットで遊ぶなどの悪い面ばかりとらえがちかもしれないが、情報を大量に迅速に使っていくということをこれから体得していくには、若い教員の方も含め、デバイスが必要なところもあると思う。ただ、デバイスにばかり頼っていたら、心の教育ができないので、うまく塩梅していくことが、先生方に求められるのではないと思う。</p> <p>◆スポーツ競技力の向上について</p> <p>○ トップアスリートを育成すること自体は、否定するものではないが、競技力向上の評価で、国体の順位に重きを置くのは、違和感がある。また、オリンピック出場という指標も、オリンピック強化選手になると県を出てトップアスリートに向けて強化することになると思うので、県の指標としてはどうかと思う。</p> <p>例えば、底辺の底上げのため、基礎体力を上げていくなどの指標に重きを置くべきではないか。トップアスリート育成と基礎体力向上のどちらかというよりは、同時並行なのかもしれない。</p> <p>◆人権教育・特別支援教育について</p> <p>○ 共生社会の実現につながり、教育の根幹でもある、人権同和教育や特別支援教育に関わる個別の指導計画の内容の充実をさらに図っていただきたい。</p>

項 目	意見等（要旨）
◆家庭の教育力向上等について	<p>○ 最近の児童虐待事件を見るときに、保護者の横の繋がりや悩みを話し合える場等の助けを求める手立てが、もう少し近くになれば事件は防げたのではないかと思う。</p> <p>家庭の教育力向上として、様々な取り組みがなされているが、もう少し早い段階で助けを必要としている保護者や子どもへの働きかけやそういった家庭の見つけ方ということを、地域でも考えていければと思う。</p> <p>○ 親が、ちょっとしたことを話し合える環境（地域、社会、幼稚園、保育所、学校など）があると、安定して子どもに関われる。そうすることで愛着が強くなると思う。親も子どもお互いに愛着が強くなる。この一番大事な幼児期を何とかできないかと常々思っている。</p> <p>○ 昔は、家におじいちゃん・おばあちゃんがいて、両親が仕事でいないときでも、おじいちゃん・おばあちゃんに話を聞いてもらうことができたが、今は、核家族でそれがなく、外で遊ぶのも減り、家にいてゲームなどで友達と繋がって遊ぶので、体力低下にもなっているし、遊びの体験から得られる知恵も得にくくなっていると感じる。</p> <p>○ 最近は働く女性が多く、しかもフルタイムで働いているため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに相談したくてもできない方も多いと思う。また、子どもの数は減少しているのに、特別支援学級の生徒が増えている。これは、悩みを抱えている保護者も多いと思う。そういう方が相談しやすい方向にもって行っていただきたい。</p>
◆専門教育等、高校の情報発信について	<p>○ I O Tとか Society5.0に対するものとして、農業教育の中においては、すでにタブレットを使って生育をデータで集積したり、ドローンを飛ばして農薬散布を行ったり、環境教育的なものも含めて進んでいる。</p> <p>ただ、残念なことにそういう専門教育（農業、工業、水産、商業、福祉、看護）の現状が、保護者をはじめ県民に伝わっていないのが現状である。専門教育を知ってもらうことは、将来的な部分でキャリア教育につながっていくと思うので、保護者や小中学生、小・中学校の先生方にも、高校の専門教育を知ってもらう機会が必要だと思う。</p>
◆（地域行事を活用した）ふるさと教育	<p>○ 「滝宮の雨乞い踊り」や「農村歌舞伎」などの無形文化財的なものが、子どもたちが地域で活躍する場であり、その地域のお年寄りたちと繋がる部分で、ふるさと教育的なものにも繋がっていると思う。地域行事やお祭りなども上手く活用すると、子どもたちも違う視点を持てるのかなと感じている。</p>
◆アートについて	<p>○ 県の総合計画にも「アート県の魅力を高める」とあるが、「アート」という言葉が、図画工作や技術の授業の延長ではなくクリエイティブなものに変わってきているような気がする。STEAM教育の中にも、「アート」という言葉が出てきており、新しいものという感じがしている。</p>
◆SDGsについて	<p>○ 2015年に国連サミットで採択されたSDGsについては、今いろいろなところで話題になっている。様々な教育施策のテーマは、SDGsと絡めると結構よく似たところもあり、SDGs的な観点は必要だと思う。</p>
◆指標について	<p>○（点検評・評価報告書の）令和元年度実績で、C評価も数々あるが、これを全部Aにしようとする、学校の先生方はますます多忙化すると感じる。評価の指標を働き方改革も踏まえながら整理していくのも必要ではないか。</p>